

令和2年度 かほく市立河北台中学校 学校評価中間報告書

重点目標	具体的取組	これまでの主な取組内容	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	達成度	中間評価	備考 (R1本校及び県調査結果より)
1 ★生徒の学力向上と教員の授業力向上のために取組の充	① ★校内研究会の充実 ・ 授業力向上のための研究実践 ・ 若プロ研修の充実 ・ 講師を招聘した研修会の実施	○ 授業における「振り返り」と「まとめ」を充実させるための取組 ○ 授業者による月末の自己評価 ○ 取組の成果の公開(給湯室等での掲示) ○ 若プロ研修の充実 オンデマンド研修 カリキュラム・マネジメント研修 指導案作成のポイント ○ 学校訪問に向けての取組 共通実践に向けての校内研究会の実施 指導案様式の検討 指導案の検討・作成	【満足度指標】教職員 若プロなど、校内研修会が充実している	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	95% B	・ より良い授業づくりに努力している様子がうかがえる。今後も計画的、系統的な研修を企画していく。 ・ 授業では、自ら取り組もうとしている生徒が多くいることがうかがえる。	県96%
			【努力指標】教職員 課題設定や授業展開、教材教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A		本校95%→92%
			【成果指標】生徒 授業では、理解しようと自分で考え、自分から取り組んでいる	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	91% A		
			【成果指標】生徒 先生や友だちの話を、分かろうとして聞いている	A:95% B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	96% A		
	② 学習指導の充実 ・ 学習意欲を高めるための取組推進 ・ 河北台授業スタイルの構築 ・ ★少人数(数学・英語)授業の有効活用	○ 月目標の取組 6月;2分前ベル学に心がけよう 7月;テストに向けて、授業に真剣に取り組もう 8月;計画的に学習に取り組もう 9月;忘れ物ゼロと宿題をしっかりやろう 全校集会等での評価・指導の継続 担当者が分析し、その結果を掲示で啓発 ○ 少人数学習の有効活用 数学;両コースの人数配分の工夫 英語;発展コースのプレゼン学習 ○ ALTによる昼放送 外国のDJのような放送によるヒアリング強化 ○ 家庭学習時間・忘れ物調査の実施 ○ 宿題ボードの設置 ○ 定期テスト一週間前からの諸活動禁止 ○ 数学教室入りの張り紙(ベル学のルール、忘れ物ないかの意識向上のための言葉) ○ テスト前に過去問のプリントを希望者に渡す取組	【努力指標】教職員 授業の中で、課題を示している	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	・ 今後も、授業の課題を明確にし、生徒の思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいく。 ・ 総じて例年並みである。今後は否定的に答えた生徒への個別指導が重要と考える。 ・ 家庭学習の習慣化においてはまだまだ課題が多い。宿題ボードの活用や宿題の出し方など工夫しているものの、その成果には繋がっていない。今後も指導方法の工夫をしていく。	県98%
			【努力指標】教職員 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	95% B		県94%
			【満足度指標】生徒 授業は分かりやすい	A:90% B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	91% A		本校92%→92%
			【成果指標】生徒 授業で互いの考えを出し合ったり、話し合ったりする時間がある	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	88% B		本校89%→89%
			【努力指標】教職員 生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A		県83%
			【成果指標】生徒 自分で計画を立てて勉強している	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	64% D		本校73%→60%
			【満足度指標】保護者 お子様は、自分で計画を立てて勉強している	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	59% D		本校63%→68%
			【成果指標】生徒 平日、1日1時間以上、家庭学習をしている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	71% C		本校69%→65%
			【成果指標】保護者 お子様は、平日、1日1時間以上、家庭学習をしている	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	59% D		本校57%→61%

重点目標	具体的取組	これまでの主な取組内容	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	達成度	中間評価	備考 (R1本校及び県調査結果より)
	③ 学力調査の有効活用 ・ 実行力の高い学力向上ロードマップの再構成と取組推進 ・ これまでの問題の活用 ④ キャリア教育の視点を重視した取組推進 ・ 将来の夢や希望を持つことができる指導の工夫 ・ 総合的な学習の時間の指導の工夫	○ 定期テストでの検証問題の差し込みと検証 ○ 教科ヒアリングの実施(数学) ○ 職場体験に代わる「職業について学ぶ会」の実施 ○ 高校説明会の実施 ○ SDGsを骨子とした総合的な学習の時間の計画・実施 1年: 専門家と連携した防災学習 防災士、社会福祉協議会 市役所職員、区長 3年: SDGs17の目標に準じた調べ学習 プレゼンの実施、専門家の助言	【努力指標】教職員 学力向上ロードマップや学力向上プランに基づく指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	・ キャリア学習の視点と総合的な学習の時間で培う力を高めるための取組を進めているものの、将来の夢や目標を十分に持つまでには至っていない。今後も、取組の検証をしながらより良い内容に努めていく。	県87%
			【努力指標】教職員 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	90% A		本校73%→74%
			【満足度指標】生徒 将来の夢や目標を持っている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	71% C		本校61%→65%
			【満足度指標】保護者 お子様は、将来の夢や目標を持っている	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	63% C		
2 様々な体験活動等を通して、豊かな心と心身とも健康である生徒を育成するための取組の充	① 外部人材の有効活用 ・ ★道徳、進路関係、健康増進、読書活動、食育などにおける専門的な分野の方を招いての取組 ② コミュニティー・スクール制度の積極的な活用 ・ PTAや生徒会と連携したボランティア活動の実施 ③ ★読書活動の推進 ・ 専任司書の有効活用	○ 外部人材の活用場面 高校説明会、職業について学ぶ会、学習支援スタッフ、読み聞かせ、日本語指導、旅行社スタッフを活用した英語授業、防災学習、SDGs調べ学習・発表会 ○ ボランティアグループ「myan」の活動アナウンス ○ JRC委員会 ペットボトルキャップ等の回収 ○ 図書室外での本紹介 学年ホール、生徒玄関 ○ 昼の放送での本紹介 ○ 使いやすい図書室整備 本棚の配置転換、雑誌の閲覧 ○ 図書館運動会 ○ 読み聞かせ ボランティアグループ+学校司書	【成果指標】教職員 様々な体験活動において、外部人材が有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A	・ 外部人材が生徒たちにも好評である。今後も有効活用していく。 ・ ボランティア活動においてはまだ一部の生徒に限られている。良さを広めていく。 ・ 司書の常駐化により図書室の活用は高まったが、相対的には十分とはいえない。様々な取組をしながら読書の良さを伝えていく。	
			【満足度指標】生徒 授業や行事で専門家の人の話や活動は、より勉強になる	A:90% B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	92% A		
			【努力指標】教職員 生徒にボランティア活動の積極的な参加を促すなどの推進に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A		
			【成果指標】生徒 生徒会やPTAなどのボランティア活動に協力できている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	61% D		
			【努力指標】教職員 朝読書や図書館の活用など、読書活動の推進に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	94% B	・ 4～8月 貸し出し数42%増 来館人数67%増 不読率50.7%→4.6%	本校3年;57%
	【満足度指標】生徒 読書は好きである	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	68% B				
	図書室の利用度(貸し出し数、来館人数、不読率)	A:昨年度より20%増 B:昨年度より10%増 C:昨年度より増 D:昨年度より減	A				

重点目標	具体的取組	これまでの主な取組内容	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	達成度	中間評価	備考 (R1本校及び県調査結果より)		
3 生徒と向き合う時間の確保と積極的なコミュニケーション	① 学年担当全員で生徒を見る体制づくり ・朝学習や給食など、学年全員で指導する体制づくり ・学年担当全員で、総合的な学習の時間の指導ができる体制構築	○朝学習、給食時での全員指導体制の実施 ○学年総出での課題点検 ○コロナ対策のための健康チェック	【成果指標】教職員 学年担当全員で生徒を育てていく体制ができてきている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A	・朝、休み時間、給食と学年担当全員で指導している。 ・今後も生徒と向き合う時間を少しでも多くとることができるような体制を構築していく。 ・SCや教育相談員等との教育相談体制が機能化され、生徒とのより良い交流にも努めてきている。今後も普段の生徒との関わり方や不登校対策などの取組をより効果的にしていく。			
			【成果指標】教職員 可能な限り、生徒と向き合う時間が確保されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B				
	② 職員室モニターの有効活用	○朝礼での連絡は最小限、モニターで連絡	【成果指標】教職員 職員室モニターが有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A				
	③ 水曜日の有効活用 ・職員関係の会議を水曜日に行うための日課の実施	○月2回の会議優先日の設定	【成果指標】教職員 生徒のいない(水曜日の放課後など)時に、会議が設定されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A				
	④ 生徒指導の3機能による指導の充実 ・実 自己決定、存在感、共感的人間関係を意識した生徒指導 ★いじめ、不登校対策の充実 小学校との積極的な連携 専門機関との連携を図りながらの教育相談体制の充実	○教育相談担当、教育相談員、SCの連携 不登校生徒宅への訪問 相談室登校生徒への支援	【成果指標】教職員 SCや教育相談員との連携など、教育相談体制がより良く機能している	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B		県98%		
			【努力指標】教職員 生徒に積極的に声かけるなど、生徒との交流に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A				
		○月1回のいじめ防止調査の実施 掲示による啓発活動 ○専門相談員の活用 ○道徳授業の様子を学年掲示	【努力指標】教職員 生徒を認めたり、励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A				
			【満足度指標】生徒 先生はあなたの良いところをみとめてくれている	A:80% B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	91% A				
		○月目標の取組 6月;時間を守ろう 7月;部活動を完全燃焼しよう 8月;規則正しい生活をしよう 9月;挨拶と身だしなみに心がけよう 全校集会等での評価・指導の継続	【満足度指標】保護者 学校は、お子様をよく理解し、指導している	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	80% B			・生徒とのより良い関係づくりには一定の成果が見られる。一方、保護者との関係づくりには、もう少し工夫が求められる。	本校77%→85%
			【満足度指標】生徒 学校へ行くのは楽しい	A:90% B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	88% B			・コロナウイルスの影響で様々な行事が縮小・中止され、行動も制限されている中で、例年並みの結果だった。今後も、授業をはじめ、生徒にとって魅力ある学校づくりに努めていく。	本校86%→90%
		○体育祭における生徒会活動の充実 執行部を中心とした運営、3年生を中心とした団づくり、意欲的な態度を身に付けさせる職員の指導とあらゆる面から成功への導いた	【満足度指標】保護者 お子様は、学校へ行くのが楽しいと言っている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	85% B				本校87%→84%
			【成果指標】生徒 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:90%未満	98% B			・いじめはいけないことだと思う生徒の割合はこれまで相対的に低かったが今回は増えた。保護者へのお知らせを工夫していく。	本校94%→96%
○毎月実施のサポートアンケート 月に応じた内容を組み込む	【満足度指標】保護者 学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	58% D		本校60%→69%				

重点目標	具体的取組	これまでの主な取組内容	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	達成度	中間評価	備考 (R1本校及び県調査結果より)
4 ★多忙化改善のための体制構築及び推進	① 働き方改革の推進 ・ 校務分掌の役割分担の平準化 ・ 学校CNの活用促進 ・ ★PC活用の授業やペーパーレス会議等、ICT環境の整備	○ 学年会、各種委員会、主任会の連動した体制づくりによる効果的・効率的な運営 ○ 学校CNのコロナ対策や施設管理等での有効活用 消毒、清掃、健康チェック 安全点検、園芸作業 ○ ペーパーレスの職員会議の実施 ○ 分掌内での役割分担の見直し 学習指導部会(掲示担当者、全校集会で話す人が輪番) ○ 体育祭の内容縮小における時間外勤務の削減 ○ 集金業務分担の見直し	【成果指標】教職員 校務分掌の役割分担が適切で、効果的に運用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B	・ 今後も効果的効率的な業務遂行に努めていく。 ・ 時間外勤務時間数においては、コロナウイルスの影響で昨年度と単純に比較することはできないと考え、達成度を示さなかった。勤務内容の平準化については、まだ十分とはいえない。今後も検討していく。	勤務時間外時間の平均 R1は、H29より22.7%減、H30より1.4%減
			【成果指標】教職員 学校コーディネーターが有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A		
			【成果指標】教職員 ICT環境の整備で、業務が効率化されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B		
			【努力指標】教職員 勤務時間外を少なくするなど、面談シートで示した各自の働き方改革に関する目標達成に向けて取り組んでいる	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A		
			【成果指標】教職員 勤務時間外時間の比較	A:H30より30%減 月80時間超ゼロ B:H30より10%減 月80時間超10%未満 C:H30より減 月80時間超10%以上 D:H30より増 月80時間超20%以上	月80時間超 18% C		
	② コミュニティスクールプランの有効活用 ・ 用 学習支援スタッフの活用	○ 看護大生による学習支援スタッフ ○ 国際交流員による日本語指導 ○ 元教員による放課後自学学習支援	【成果指標】教職員 学習支援スタッフが有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B		
	③ 新型コロナウイルス感染症対策の実施 ・ 教育課程の見直し、行事の精選、適切な感染症対策の検討	○ 学校行事等の適切な対策 体育館や放送による全校集会の実施 学年対応による朝の検温 部活動における健康観察	【努力指標】教職員 先を見通して、授業をはじめとする教育活動をすすめている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	・ 部活動において、健康観察の徹底から部員をよりきめ細かく指導することに繋がった。	